

年度	2026年度
試験日	2026年2月19日(木)
学部	教育学部
入試制度	一般選抜(A方式・B方式)
試験科目	英語

出題意図及び解答例(解答のポイント)

【注意事項】

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

※お問い合わせいただいた内容は本学で確認し、必要がある場合には、入学センターWebサイトに掲載いたします。個別に回答することはいたしません。

※お問い合わせ先：早稲田大学入学センター nyusi@list.waseda.jp

■出題意図

早稲田大学教育学部の一般選抜では、①教科に関する確かな基礎学力と②「教える・伝える力」の基盤となる論理的思考と言語運用に関する能力を評価・判定する。英語の出題範囲は、英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲである。なお、A方式とB方式の英語は同一の問題とする。

今年度の問題は、テーマや文体の異なる三つの英文を素材として、受験者の総合的な英語読解力を測定することを目的とする。具体的には、いずれの文章についても、語彙・文構造の理解にとどまらず、段落ごとの主張や情報の役割を捉え、段落間の関係性(対比・因果・一般化・具体例)を通じて、文章全体の論理構造を読み取れるかどうかを問うている。

また、言語論、心理学、政治問題などジャンルの異なる文章を読むことで、内容が高度かつ専門的であっても、筆者の立場、議論の展開、根拠と結論の対応関係を把握し、適切に理解できる力を評価する。

■解答例(解答のポイント)

<解答のポイント>

文章が未知の内容であり、細部の理解が困難な場合でも、具体例などからテーマを探り、理解を段階的に深めながら、大意の把握に努めるとよい。把握した大意に基づいて内容を予測しながら読み進め、予測が外れた場合には、確実に理解できていると思われる個所まで戻って読み直す読解上のストラテジーが求められる。設問は文章の論理関係、例示の役割、主張、含意、価値判断、文章内の語彙の意味を問うものが中心であるが、いずれも本文の大域的理解が出来ていれば、対応可能な問題である。

<解答例>

I.

1.c, 2.c, 3.c, 4.b, 5.a, 6.b, 7.b, 8.c, 9.c, 10.b, 11.d, 12.c, 13.b

II.

1.b, 2.a, 3.d, 4.正解なし, 5.b, 6.b, 7.c, 8.b, e, 9.b, 10.a, 11.c, 12.b, 13.b, 14.a

III.

1.b, 2.d, 3.d, 4.c, 5.b, 6.a, 7.d, 8.b, 9.c, 10.c, 11.b, 12.b, 13.a